

令和5年度 第2回いなべ在宅医療・介護連携研究会



今回は4年ぶりの多職種集合の研究会
懐かしい方々と再び顔を合わせて大いに盛り上がりました

日時：令和6年2月22日（木）18:30～20:00
場所：員弁コミュニティプラザ
参加者：88名
(いなべ市・東員町の医療・介護関係者など)

第1部
◆「もしバナゲーム」を一緒にやってみよう！
講師 もしバナマイスター
看護師 中道尚美さん
「もしバナゲーム」で自分や他者にとって大切な価値観を考えるゲームを実施しました
◆グループワーク
①もしバナゲームを通して自分の「価値観」とグループメンバーの「価値観」を聞いて感想や気づき
②それぞれの立場から意思決定支援に携わった経験ゲームを通しての配慮やあり方、できることなど

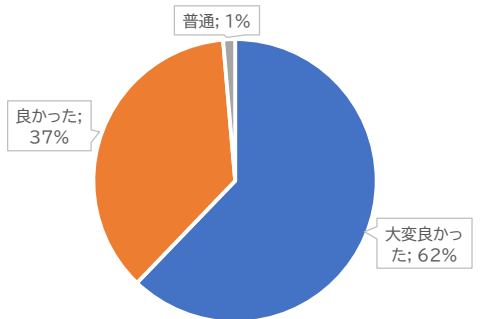


第2部
◆「いなべ地域緊急時の情報連携票」
利用の手引きについて
病状の急変など救急搬送される際に、救急隊や救急医療機関との連携が円滑にすすむように緊急時の情報連絡票の活用について説明しました



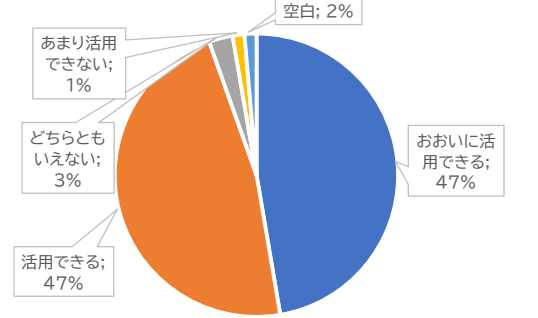
アンケート結果

第1部「もしバナゲーム」



- ・余命半年を想定する中で関わっている職業によって考え方が違った。いろいろな意見が聞けて良かった
- ・もしバナゲームが思っていたより盛り上がった 自分が考えている事とは違う答えもあり勉強になった
- ・価値観の違いや何を大切にしているかはそれまでの人生や死生観が影響するのだと感じました
- ・グループワークがとてもよかった 交流が持てた
- ・改めて自分を振り返る機会となりました

第2部「緊急時の情報連携票」



- ・介護現場では人手不足でこの用紙で統一されるとありがたい
- ・DNARのとらえ方が難しいと思った
- ・共通の様式があると安心 情報を整理し緊急時の対応がスムーズに行えるよう活用していきたい
- ・DNARの確認についてただ本人に確認するだけではなく医師とも連携を取っていくことが大切なんだと思いました
- ・病院と施設との連絡票の取り扱いについて相違なく共有できてないと上手に活用が出来ないと思いました

グループワーク結果

- ・年齢、経験、立場、職種価値観が異なる
- ・もしバナゲームを上手く活用するのは難しいが考えるのは楽しい
- ・家族の大切さはグループメンバー全員が一緒だった
- ・自分のことを理解し、おだやかな気持ちにさせてくれる方がいるとうれしい

